

平成 28 年 10 月 18 日

土佐リハビリテーションカレッジ
理事長 大崎 博澄 様

学校関係者評価委員会
委員長 北村 剛

平成 28 年度学校関係者評価委員会報告

平成 28 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小笠原 正（企業等評価委員）
- ② 一圓 智加（企業等評価委員）
- ③ 細田 里南（卒業生評価委員）
- ④ 北村 剛（卒業生評価委員 委員長）
- ⑤ 尾崎 充彦（専門家等評価委員）
- ⑥ 濱川 美香（高等学校等評価委員）
- ⑦ 下村 幸正（保護者評価委員 副委員長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第 1 回委員会 平成 27 年 8 月 29 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）

第 2 回委員会 平成 28 年 10 月 1 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）

3 学校関係者評価委員会報告書

別添のとおり

以上

別添

平成 28 年 10 月 18 日
土佐リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

平成 28 年度学校関係者評価委員会報告書

平成 28 年 10 月 1 日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて評価結果をまとめた。

1. 国家試験合格率の向上

【学校の取り組み】

- ・国家試験合格率の数値目標を両学科共に 100%、少なくとも全国平均値を上回る値とし、それに向けた取り組みを強化していく。
- ・成績不振者に対して集中的な指導の時期を早める。
- ・4 年次後期において、例年よりも早期に教員による対策講座を行う。また模擬試験を繰り返し行うことで、各学生の学習の進展状況を確認し問題を克服できるようにする。
- ・着実な学力の定着や能動的な学習態度を身に付けられるよう、1 年生時から指導をおこなう。課外に少人数で学習指導をおこなうチューター制度を活用する。これは平成 27 年度より既に開始しているが、成果を見極めながら継続している。
- ・国家試験不合格者に対してこれまで通り科目履修生制度を活用し、国家試験対策授業への履修を認め早期の国家資格取得を目指していく。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ①全国的にどの学校も同じ問題を抱えているのか、土佐リハ特有の問題がありそれに対する国家試験対策なのか、また全国的にはどのような対策を行っているのか。
- ②対策についての評価は 1 年ごとに行っているのか。

【学校としての対策】

- ①全国的に同じ構造の問題であると思われる。本校では他校の国家試験対策について見学を行うなど情報収集をしている。当校の対策の効果を話し合いながら進めていく。
- ②不合格者にはなぜ合格しなかったかの振り返りを行い、それによって毎年対応策は変えていっている。また学年の構成員やクラスの雰囲気も考慮していく。

2. 退学防止

【学校の取り組み】

- ・近年の現状を踏まえ、年間の退学者数を10名(3.1%)以内となるよう数値目標を定め、その実現に向けて対策を講じていく。
- ・学業不振は1年生前期試験の段階から見受けられる。これまでと異なる試験形式に戸惑った結果成績が振るわなかった場合もあり、これについては学習方法についてアドバイスすることで改善を図る。一方絶対的に学習時間が不足した結果の成績不振者については、学習習慣が十分に身につけていない場合が多く、頻繁な声かけ、小テストの実施などを通して学習する機会を増やすように取り組んでいく。
- ・職業意識の高まりや臨床実習を通しての意識変容などにより学内成績が上がるよう、実習施設の協力を得ながら内発的動機を高められる取り組みについて検討していく。
- ・退学前の徴候として考えられる講義欠席数の増加、受講態度や成績の変動などを早期に察知し対策を講じていく。学科担任は、学生の受講状況を把握し、欠席が目立ち始めた際には早期から介入をおこなう。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ①全国的な動向はどうなっているのか。
- ②理学療法学科よりも作業療法学科のほうが退学、留年数共に多いのは、理学療法士は認知度も高く、魅力を感じている学生が多かった。また理学療法学科に不合格になり作業療法学科に入学している学生も一定おり、動機の部分で目的意識が低いことが要因として繋がっているのではと推察する。

【学校としての対策】

- ①退学率・留年率についての全国的なデータはないが、入学者数に対する卒業生数のデータを見ると右肩下がりになっているので、全国的に同じ傾向なのではと類推する。
- ②学力試験も学科間の格差はほぼなく、入学時の学力と、国家試験の合格率の相関はないという統計も出ている。近年作業療法学科の教員の努力もあり、グループ学習の浸透など、4年間の教育の成果が出始めているので、教育方法を両学科共有していく。
- ③作業療法学科は、実習を通してアイデンティティが上がる面があり、作業療法の魅力が分かるまでに時間がかかると思われる。作業療法士のやりがいを見つける前に学力不振や、経済状況等で悩んでしまう学生もいる。教員として、興味の湧く授業を展開していくよう努力を続けていく。

3. 保護者・学生に対する情報提供の充実

【学校の取り組み】

(1) 教育理念の周知・育成人材像の明示

- ・教育理念については学校パンフレットなどの媒体を通じて広く周知を図っている。
- ・育成人材像については、目標などを明示したパンフレットを別途作成し、実習施設や求人施設訪問時に配布している。

(2) 学校運営方針の明示と実行方法について

- ・校長より、年度初めに重点項目を定めた「学校運営方針」を示し、この方針に示された数値目標を達成するため、各種委員会（教務委員会、入試委員会、就職委員会等）で対策を協議し運営している。またホームページ上で事業報告書、収支計算書等を公表している。

【学校関係者評価委員からの意見】

①卒業生の就職先の管理職や経営者に、個人を特定せず、卒業生の傾向などを分析すれば学校が目指す方向が見えてくるのではないかと思う。全国的にもリハ学校は厳しい状況にあると見受けられるが、どうすれば土佐リハが生き残れるか、中長期的な視点で眺めることができると思うので、是非検討して欲しい。

【学校としての対策】

①卒業生に対してダイレクトにモニタリングはできていないのが現状である。本校同窓会組織である未来会などの協力をいただいて方法論について検討していく必要性を感じる。今後実践に向けた対策を検討する。

②国家試験合格は学校、保護者、学生本人の総力戦であるので、生活習慣なども含め、家族の協力も得られないと難しい。家庭の事情などでコンタクトが取りにくい場合もあり、後援会と一緒に学生をケアしていくよう努める。

4. 学生支援体制について

【学校の取り組み】

(1) 基礎学力支援

- ・学生支援室に専任教員を配置し、高校までの学び直しや基礎学力の向上をサポートしている。

(2) 学生相談の体制

- ・担任と学生支援室職員双方が学生相談に対応し情報の共有等、関係部署が連携し取り組んでいる。

(3) 就職支援

- ・20年連続就職率100%を維持している。全国の求人担当者を学校に招いた就職説明会、また就職活動に関連しハローワーク職員等を講師とした学内講座の開催を、毎年継続して行っている。学生支援室として一般教養試験対策や小論文対策をおこなっている。

(4) 学生の保健管理

- ・学校医（きんろう病院）と提携し、年1回の定期健康診断の実施、実習受講に必要なワクチン接種などもおこなっている。
- ・保健室の設置に加え、学生のメンタルヘルスに関して、臨床実習中に精神面で変調をきたすような問題については、学校教員と実習指導者が学生の対応にあたっている。

【学校関係者評価委員からの意見】

①指定校推薦など9月入試での合格者は残り半年間の高校生活の引き締めを力を入れている。入学前に土佐リハからも課題等を与えてくれれば、生徒たちの気も引き締まると思う。入学前に自分に足りない部分を知るため強制力を持たせ、緊張感を持って入学するようにしてほしい。入学前教育の充実を考えてもらいたく、高校側としても協力していきたい。

【学校としての対策】

①合格者には入学前課題を送付している。ただ強制力を持たせる訳にはいけないので、提出がない場合には連絡し指導している。今後高等学校の協力も得られるよう対策を講じていく。

5. 防災・防犯対策について

【学校の取り組み】

(1) 防災・避難訓練

- ・地域の住民と合同で防災訓練・消火器訓練・津波避難訓練を実施した。また高知市防災対策推進課より南海トラフ地震を想定した避難訓練と、防災をテーマとした講演を行った。
- ・非常持ち出し袋の学生への貸し出しを実施している。

(2) 防犯対策・その他訓練

- ・SNS 利用時のトラブルや、一人暮らし学生の生活面における注意喚起などを目的とした「防犯講座」を適宜開講している。
- ・AED を 3 台設置し、教職員の使用講習を実施している。

【学校関係者評価委員からの意見】

①耐震対策について、避難所として非構造部材（天井や照明など）の点検は行っているか。耐震化について、教育委員会学校安全対策課より専門家による調査を行うことになったので、後日参考にしていただきたい。

【学校としての対策】

①体育館の天井については点検を行っているが、その他は充分とは言えない。避難所としての教育機関における留意点など習得し、今後改善実践していきたい。